授業科目名	プラットフォーム技術Ⅱ		科目コード	１０１００９	
開講クラス	情報システム科	コース	IT エンジニア	学　年	２年
担当教員	黒澤　伸也		実務経験教員（ 有 ・ 無 ）		
	実務経験内容 大手企業が提供するネットワークの監視 IT 未経験者に対する初期教育、及び中堅者への技術研修				
開講時期	前期・後期・通年・特別講義・その他			授業コマ数	６０時間
	必　須 ・ 選　択 ・ 選択必須			単　位　数	２単位
使　用 テキスト１	書　名	体験しながら学ぶ ネットワーク技術入門			
	著　者	みやた ひろし			
	出版社	ソフトバンククリエイティブ			
使　用 テキスト２	書　名	Linux 標準教科書			
	著　者	LPI-Japan			
	出版社	LPI-Japan			
参考図書					
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他（　　）				

＜授業の目的・目標＞
・仮想空間においてネットワーク構築を体験し、実務で通用するスキルを身に付ける。同時に Linux の基本操作方法を理解する

＜授業の概要・授業方針＞
・１年、２年時に学習した知識を基に、WSL2、Docker などを活用しながら架空ネットワークを構築。プロトコルやツールの役割と性能を理解すしつつ、Linux 基本コマンドが使えるようになる

＜成績基準・評価基準＞
・期末試験にて評価
１００～８０点：優　　７９～７０点：良　　６９～６０点：可　　５９点以下：不可
なお、追試験を行う場合はすべて可と評価する。

＜使用問題集・注意事項＞
・国家試験との関連が強い分野も多く含まれるため、随時基礎知識の確認を行いながら進める。
・実物で確認できるものは極力使用すること。

＜授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他＞
コンピュータテクノロジー、対策演習

授業科目名	プラットフォーム技術Ⅱ	
回	授　業　内　容	備　考
1	ガイダンス	
2	ツールの理解（1）	
3	ツールの理解（2）	
4	WSL2 のインストール（1）	
5	WSL2 のインストール（2）	
6	WSL2 のインストール（3）	
7	セットアップスクリプトの実行（1）	
8	セットアップスクリプトの実行（2）	
9	チェックスクリプトの実行	
10	WSL2 の使い方（1）	
11	WSL2 の使い方（2）	
12	WSL2 の使い方（3）	
13	Linux 基本コマンド（1）	
14	Linux 基本コマンド（2）	
15	Linux 基本コマンド（3）	
16	Linux 基本コマンド（4）	
17	Docker の使い方（1）	
18	Docker の使い方（2）	
19	Docker の使い方（3）	
20	Docker の使い方（4）	
21	tinet の使い方（1）	
22	tinet の使い方（2）	
23	tinet の使い方（3）	
24	tinet の使い方（4）	
25	検証環境の構築（1）	
26	検証環境の構築（2）	
27	検証環境の構築（3）	
28	検証環境の構築（4）	
29	構成の概要	
30	動作確認（1）	

回	授　業　内　容	備　考
31	動作確認（2）	
32	設定ファイルの使い方（1）	
33	設定ファイルの使い方（2）	
34	設定ファイルの使い方（3）	
35	設定ファイルの使い方（4）	
36	検証環境の確認（1）	
37	検証環境の確認（2）	
38	ネットワークプロトコルを知る（1）	
39	ネットワークプロトコルを知る（2）	
40	イーサネットとは	
41	ARP	
42	ARP プロトコルの確認（1）	
43	ARP プロトコルの確認（2）	
44	L2 スイッチ（1）	
45	L2 スイッチ（2）	
46	VLAN（1）	
47	VLAN（2）	
48	検証環境の確認（1）	
49	検証環境の確認（2）	
50	レイヤー３プロトコルの把握（1）	
51	レイヤー３プロトコルの把握（2）	
52	IP（1）	
53	IP（2）	
54	ICMP（1）	
55	ICMP（2）	
56	レイヤー3 プロトコルの演習（1）	
57	レイヤー3 プロトコルの演習（2）	
58	ルーティング・NAT（1）	
59	ルーティング・NAT（2）	
60	ルーティング・NAT（3）	